



| | |
|--------------|---|
| Title | 「とき」の周辺的な使用について：話題化への途上 |
| Author(s) | 早瀬, 尚子 |
| Citation | 言語文化共同研究プロジェクト. 2020, 2019, p. 51-60 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/76980 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「とき」の周近的な使用について—話題化への途上—

早瀬 尚子

1. はじめに

最近、日本語の「とき」の使い方に関して、少し気になる用例を耳にすることが増えた。

- (1) 他で、じゃあ人事系でモチベーション上げるプロジェクトをやりましょうっていったときに、そのやり方ってどうやってマネジメントするのっていうところに教科書ないですよ。¹
- (2) で、どういう言葉がいいかなあっていったときに、そういうものをナビゲートするという意味で、食べ物だったり、自転車だったり、旅だったりと色々なんですけど、サイクルライフ・ナビゲーターと名乗らせていただくようになりました。²

いわゆる、純然たる時間をあらわす「とき」ではなく、また「ていったときに」などの複合形式をとるのが共通点であり、話し言葉で主に見られる。「ときに」のあとが比較的長く語られることも特徴である。

本論は、この表現パターンの特徴について考察を加えた試論である。まず第2節では具体的事例を収集して検討を行い、そこで「引用」が主に用いられる傾向が強いことを見る。第3節ではこの複合的な接続表現が話題化として取り上げる談話的な使われ方へと拡張していることを指摘する。第4節ではこれらの現象を日英比較の観点から考察し、日本語に見られる特徴が強化されていることを議論する。第5節はまとめである。

2. 「ときに」の用例

「～ときに」で通常よく見る使われ方として、「～の {場面・段階} で」の意味がある。例は以下の通りである。

- (3) a. 小腹が空いたときに、どんな店に行きますか。
b. ある程度努力が積み重なってきたときに、爆発的に効果がでるんだと思う。
c. 水害に遭ったときにすべきこと 10 項目

これらの例は、「～空いたなら・積み重なってきたら」または「～空いたら・積み重なったら」と言い換えることも可能であり、ある種の条件読みを可能とする。つまり前件の内容が成立した場合に、後件の内容が成立する、という解釈である。条件読みだと、前件の内容

¹ 「エンジニアのキャリアとか、生き方とか (前編)」 <https://enterprisezine.jp/dbonline/detail/8770>

² 「自転車でカラダとココロのシェイプアップ」 <https://www.bayfm.co.jp/flint/20090201.html>

は必ずしも成立してはいない仮想のもののはずだが、ここではタ形を使っているため完了的な解釈が強くなる。タ形は(4a)のように過去のことも表すが、(4b)のように完了も表す。つまり「もしもこういう事態が生じたなら、どうするか」という、相手にその仮想解釈を迫体験させる効果も持っている。

- (4) a. 福祉の仕事をやろうと思ったきっかけ：祖母が介護が必要だとなったときに、具体的に相談にのってあげられなかった為
- b. しかし、交通費の精算を行ったり、ちょっとした見積書を作成するといったときに利用する機能は、それほど多くないはずだ。

いずれの例も、実際にそのような場面になった「その時点で」どうなるか、を語っており、ここには時間的なニュアンスが残っているとと言えるだろう。

さて、(4)は実例でもあるため、違和感をあまり覚えられない人もいるかもしれない。しかしこれらの表現には、そもそもなくてもいい表現が関わっていることに本稿では注目したい。それは、(4)において、「となった」「といった」という表現が、必ずしも必要ではない要素だ、という点である。次の例と比較してみよう。

- (5) a. 祖母が介護が必要 {になった/な} ときに、具体的に相談にのってあげられなかった為
- b. 交通費の精算を行ったり、ちょっとした見積書を作成するときに利用する機能は、それほど多くないはずだ。

このように言い換えても全く問題なく、むしろこちらの方が標準的な使われ方でもある。(4)では介在要素「となった」「といった」が余分に用いられており、その直前の要素は命題的な特徴を見せることになる。この側面がさらに強調されているのが次の例である。

- (6) a. たとえば本文内の補足を別のウインドウを使って外部リンクで説明したいけれど、毎回ぼろぼろとタブが増えるのはイヤだ、決まったタブに出したいんだといったときに使えます。
- b. 今、少子化をどう考えるかといったときに、国民の中にまとまったコンセンサスといったものがないと見えています。

この事例にみられる特徴は、「ときに」に先行して現れる要素が、引用だということである。ここでの「という」は実際に「言う」の意味で使われているわけではない。しかし実際の誰かの発言を彷彿とさせるような要素が入り込んでいるといえる。

一般に引用とは「ある場で成立した言葉や思考を、現在の語りの場に引いてくること」

(鎌田 2000) である。この考え方は、言語の使用を大きく二つに分けることを前提とする。関連性理論によれば、私たちが使う発話は、記述的使用 (descriptive use) と帰属的使用 (attributive use) に分けられるという (Wilson and Sperber 2012)。記述的使用とは、目の前にある現実の事態を表したり (例:「現在、ツツジが満開です」)、望ましい状況 (可能事態) を述べたり (例:「買い物に行ってきてくれませんか」) する場合を言う。一方、帰属的使用とは、発話時の話者とは異なる人の発話や思考を表す (「[コロナで阪大は前期すべてをウェブ授業にした]んだって」の[]内がこれに相当する) (Wilson and Sperber 2012: 128)。話者以外の帰属元が特定の個人に帰することができない一般的な規範や常識の場合もある (例:「[灯台もと暗し] {って言いますもんね・ですもんね}」)。

引用は帰属的使用にあたる。目の前の状況をそのまま記述する記述的使用とは異なり、ある場面における実際の発言や思考をそのままの形で取り上げ、現在の発話の場において再現する。再現するのは自分の発話の場合もあるし、他人の発話の場合もある。また実際の発話ではなく声に出されない思考の場合もある。この引用形式には、ある場で伝達者が述べたり思ったりする内容 (「引用部(quoted part)」) と、話者がそれを現在の発話の場に引いてくる部分「伝達部 (quoting part)」の二つが同時に含まれており (中園 2006)、ここで伝達者がどのように伝達したいかという、伝達者の意図や気持ちも表現されると考えられている。

本論で扱う現象について言えば、「～っていったときに」を例にとると、「～」の部分が引用部であり、「って (いった)」の部分が伝達部となる。「～」の部分は人が実際にあるいは仮想的にそう発言したとみなせるものとなる。この引用部の形式にはバリエーションが見られる。明らかに引用だと見てすぐにわかるものもあれば、引用に準じると目される場合もある。(7)は、直接引用の形で引用符によってマークされている場合である。

- (7) a. PDF 文書を読んでいて、「気になるところにコメントを書き込みたい」といったときに使うのが「ノート注釈」です。(桑名由美『はじめての今さら聞けない PDF 入門』)
- b. 子どもとお出かけとなると、あれやこれやと荷物が増えてカバンも大きくなりがちです。でも「ちょっとそこまで」といったときや、散歩の時には小さめバッグでも十分。³

あるいは(8)のように、「！」や「？」などの感嘆符や、「のだ」「いこう」「なくちゃ」などの、発話 (独語もある) を示唆する終助詞などの要素が用いられているケースもある。

- (8) a. じゃあどうやって人を呼ぶの？っていったときに、ひとりひとりの口コミが大事。じゃあ口コミってどういうことなの？っていう話になるんですが、分解

³ <https://www.baby-babys.com/entry/lee-sacoche-bag>

すると自分のことのように思えるか。熱狂できるか。応援したくなるか。話したくなるか。なんです。

- b. 自分のやってることが、誰かの役に立ってるんだ、っていったときに、すごく楽しくなるように、神様が創つくってくれてある。(『絶好調』斎藤一人)

(8)の下線部は、実際の発話ではない(かもしれない)が、誰かの思考(あるいは独話)に相当する内容と考えられる。「？」と疑問符は実際に質問をしていることを示唆するし、「役に立ってるんだ」における終助詞「ノダ」は話者による断定のモダリティを表すともされる(野田 1997)ため、単なる命題ではなく話者により実際に使用された表現だと考えて良い。

ここでは「ていった」という表現は本当は必要な要素ではない。実際のところ、「どうやって人を呼ぶの? ってときに」「誰かの役に立ってるんだ、ってときに」と、「ていった」を使わずに直接結びつけたとしても、文法的には遜色ないし、むしろその方が自然でもある。また、実際に本動詞としての「言う」の意味もここにはない。それが証拠に、次のような発話そのものの様態を表す表現とは共起できない。

- (9) a. 「どうやって人を呼ぶの? って { *困って / *ひそやかに } いったときに
b. 誰かの役に立ってるんだ、って { *誇らしく / *自信を持って } いったときに

つまり、ここでの「ていった」という伝達部では「(声に出して) 言う」という本動詞の意味が希薄化しており、「という (ような) 場面」として引用を導くタイプのものと考えられる。またこの引用部は具体的かつ現実の発言引用とはいえず、むしろ仮想的に設定された引用表現だと言える。次の(10)も、必ずしも直接引用とはいえないが、それに準じる例である。

- (10) a. カードゲームっていったときに2種類くらいに分類できると思うんですよ。⁴
b. その自己を意識するっていったときに、その典型として、家族でつくる自己と、それから、家族のというふうに、まず、モデルとしてはそういうふうにとられて、その場合に、たとえば、親が子を認める場合と、子どもが親を認める場合っていうのは違うと思うんです。⁵

これらは、「自己を意識する」とか「カードゲーム」などという話題を提示する役割を果たしていると考えられる。実際の発話の引用ではないが、自分の中で自問自答している、仮想的な発話の引用といっても良いかもしれない。

以上の「～っていったときに」に加えて、「～となったときに」という類似のバリエーション

⁴ 「地球環境カードゲーム「MY EARTH」を開発・商品化した慶応大学出身の大学院生、岡崎雄太さんと横山一樹さんを迎えて」 <https://www.bayfm.co.jp/flint/20081005.html>

⁵ 「自己とは何かーキルケゴールに関して」 https://www.1101.com/yoshimoto_voice/speech/text-a026.html

ヨン形式もある。こちらには、「～といったとき」よりも直接的な引用が比較的多く見られる傾向がある。

- (11) a. 持っている服が全部嫌い!! となったときにやるべき7つのこと
- b. Fatal error: Exception thrown without a stack frame in Unknown on line 0 となったときに調べるべきこと
- c. 23万が今すぐ必要になった。そんな大金ないー！全て失うーってなったときにお金の奴隷になってたことに気づいた。⁶
- d. 自分が芽が出ないな、もう表に出るのをやめよう ってなったときに舞台監督という仕事を選びました。⁷
- e. その話で言うと、友達の旦那さんが回復した元がん患者で、栄養価とかを考えてニンジンジュースを毎日飲ませたい ってなったときに、農薬の使われてないニンジンを探すのがすごい大変だとか。だから、シソとかは自分で育てることにしたとか。⁸

「ってなったときに」の場合は、そういう変化局面にある状態の人が発言しそうな表現を引用していることから、臨場感あふれる描写になる傾向がある。そのため、公的な文書にはほとんど見つけられなかったが、ネットでのブログや私的なインタビューで用いられやすい。

さて、ここまでは「って {いった・なった} ときに」という完了形式を見てきたが、これ以外にも未完了である「～って {いう・なる} ときに」という形式でも使用例がある。

- (12) a. zoom でさあメディア授業だ というときに気をつけること
- b. 大阪に来て食事をして帰りにちょっとお寿司でも! というときに寄るお店
- c. なんかの企画を話すときにいい距離感で話せるといいんですけどね、たとえば社内の誰かが会議で新しい企画のプレゼンをします っていうときに、代理店が企業にプレゼンするような距離感を感じる時があるんですよ。⁹
- (13) a. こんなに家に閉じこもってばかりなのはやだー ってなるときに、気晴らしに見たいサイト
- b. 失敗できないって焦るなら、無理にしなくてもいいんじゃないかな。「今しかない!」 ってなるときに動けばいい。¹⁰
- c. さて、いよいよ金を買うぞ ってなるときに一度にドカンと大きな額を注ぎ込

⁶ 「とだせいこ」 <https://note.com/pukupuku1608/n/nbc49bffe4a9f>

⁷ 「spigen スペシャルインタビュー」 <https://www.spigen.co.jp/blog/2018/05/02/person/kouchikazuharu>

⁸ 「トゥルースがあなたを自由にする：佐久間裕美子、最新刊『真面目にマリファナの話しよう』を語る」 <https://wired.jp/2019/09/29/yumiko-sakuma-interview/>

⁹ <https://www.nintendo.co.jp/wii/interview/souj/sp/index10.html>

¹⁰ https://kyoto-iju.com/person/hito_04

んでしまうと返って痛い目に遭うことがあります。¹¹

「～と {いった・なった} ときに」と比べて、「～と {いう・なる} ときに」は未完了を表すためか、その引用部は一度きりのことではなく、今後何度もその引用される場面が繰り返されやすい、一般性の高い内容を表す傾向がある。このような違いはあるものの、総じて同じように引用（に準じる内容）が来る割合が一定以上高いことがうかがえる。

3. 話題化への道

さらには、この表現が、変化局面にある単なる場面提示というよりも、そのあと展開する話題・テーマを取り上げる機能を果たしていると考えられる例もある。いわゆる主節に対する従属節として機能するのではなく、「～ときに」という表現自体が他から浮いた形で独立性の高い位置づけを持つようになっている事例が見られるからである。短めな表現としては(14)のように、本や記事のタイトルとして使われる。

- (14) a. 「最後に空白ページが残ってしまうというときに」(タイトル) Word 文書の最後に表があるときに、余計な空白ページが残ってしまうことがあります。こんなときは...
- b. 「海外でスマホをなくした！というときに」(タイトル)
- (15) a. このメソッドどこ？処理内容は？となったときに (タイトル)
- b. 家を売却しようとなったときに、どのタイミングで何が必要になるのか、事前に分かっていたら安心です。
- c. 突然の退職！となったとき お金にまつわる様々な手続きと対応策

いずれの例も引用を含んだ形になっている。引用部で表される事態は一回限りのことではなく複数の人々に何度も起こりうることなので、未完了を表す「～というときに」の方が好まれやすいが、実際には(17)のような完了を表す方の表現も私的なブログなどでは見つかる。

- (16) a. ただ、探求、研究っていうときに、今までだと、比較的、専門で完全にコースがパッシリ決まっていたと思うんですけど、そういうのよりはもう少し自由度があって、例えば、別のオンラインプログラムとか別の体験プログラムで、ある程度の単位を取ってくるとか、...¹²
- b. 目的自体は単純ですが、勝ちやすい方向に常に手を選んでいくっていうときに、その途中の部分で出てくる手というのは、パッとみた瞬間、人の目には、それまでの文脈上は非常に不可思議であるものがあって、その後、20 手とか

¹¹ <https://nakaoka-inc.com/staffblog/strong-asset-point>

¹² <https://www.utokyofd.com/?mov=st-13>

経つと生きてくる。

- (17) a. じゃ、どうしようかな？ってなったときに、やっぱネットで試聴っていうのは当然になってきたタイミングだったんで、どちらかという洋楽のほうをメインに聴いてたっていうのもあり、それこそ MySpace とかで、完全に洋楽志向で英語で、日本のライブハウスのシーンなんて知りません！っていう感じのをやろうって思い立ったのが 2009 年頃なんですよ。¹³
- b. それで、「自分と同じ速度でちゃんと活動している人と会話をしたい」ってなったときに、エッジの利いたことをやろうとしたら、「一回鎖国みたいな空間を作らなきゃいけないな」と思って、オンラインサロンがいいなって。¹⁴
- c. それでアルバムを出しましょうってなったときに、今までメジャーデビューしてからシングルを 2 枚出しているんですけど、アルバムっていうパッケージを作るときにはもっとやりたいことができる、いろいろと挑戦できるなっていうところで、アルバムでしかできないすごく面白い挑戦だったりとか、変な曲を——普通のバンドだったら、絶対に 1 枚にまとめないような——アルバムにしようって。¹⁵

(17)では、下の例に行けば行くほど、<A となったときに (=従属節) B (主節)>という主従のパターンが見えにくくなっていく。この使われ方では、「～と {いった/なった} ときに」は話題を取り上げる表現として独立性が高くなっており、その後はその話題に関する思考や記述が続いていくだけで、それとは無関係の展開をするようになる。つまり、「～と {いった/なった} ときに」はもはや時や場面を表す意味からは離れた、話者が話題を取り上げる際の表現としても使われるようになっていけると言えるだろう。

4. 考察

「とき (に)」に複合的に接続する表現パターンを 4 つ (「～って {いう/なる/いった/なった} ときに」) 見てきた。「って {いう/なる}」という伝達部と「～」にあたる引用部から成り立つ要素を付加したこの表現が、特に私的な文章において多用されているとわかった。特に、「ときに」という接続表現を公的に使う場合には必ずしもこの引用が必要ない場面でも、私的な使用においては引用形式が多く用いられる傾向にあることを観察してきた。

本節では、少し視点を変えて、日本語の「ときに」に対応する英語の when の事情に目を向けてみたい。それを通じて、日本語が「引用」を用いる傾向が強いことの類型論的な意義を日英比較の観点から考察する。

日本語で観察された引用の多用現象は、英語にはあまり見られない。英語では、When he

¹³ <https://avyss-magazine.com/2019/12/19/11706/>

¹⁴ <https://marketingnative.jp/special-interview-akihiro-nishino/>

¹⁵ <https://e.usen.com/enjoy-u/23768/>

says/said など、主語伝達部も明示化して表示しなければならないため、実際に発言されたわけではない思考内容を、しかも日本語のように一般的かつ仮想的な引用をすることは難しい。せいぜい(18a)のように *When it comes to...* 表現を使うか、あるいは(18b)のように一般的人称 *You* を用いるか、敢えて人称を明示化しないなら(18c)のように分詞を用いるか、となる。ここには引用というものが入り込む余地がなさそうである。

- (18) a. *When it comes to stains, the most common are red wine, coffee, mustard and ketchup. So here's the tip. Avoid the club soda. It really doesn't work. Blot if you have to but get to a dry cleaner as fast as you can so the stain doesn't set.*
- b. *When you have to wash more than once a week, swap your shampoo for a cowash (washing hair with your conditioner).*
- c. *When considering specific rates of suicide, a more informative approach might be to look at the average of prison suicides over a selected period of time.*

英語では思考を引用すること自体の頻度が日本語に比べて少ないことを言語対照的に明らかにした研究として野村 (2006) がある。この研究では日米語の母語話者に、セリフのない絵を複数枚使って物語をつくってもらい、それを即興で語ってもらうことでナラティブデータを収集した。そして、いわゆる伝達動詞 (言う、say, be like, tell ask など) や思考動詞 (思う、think など) を使ったもの、日本語であれば「〜と」「〜って」を伴っているもの、またイントネーションから引用とわかるもの、のデータをとりだし、比較している。それによると、(19)に示す対比が明らかになり、その例として(20)が挙げられる。

- (19) a. 日本語のナラティブは英語よりも引用が多い (英語の 1.7 倍)
- b. アメリカ英語では発話の引用が多いが、日本語は思考内容の引用が多い。
- c. アメリカ英語では引用が語り手の視点からなされるが、日本語では登場人物の視点から成される。 (野村 2006)
- (20) a. 一人じゃ渡れないと思って、仲間を探しにいきました。
- b. *But he doesn't know how to get across to get to the other side. So, he turns back and he comes upon a larger white guy.* (野村 2006)

本多 (2009) は、野村 (2006) の例をひきつつ、日本語の例文がシミュレーションによる他者理解を反映したものだとは主張している。本多 (2009: 409)によれば、(直接話法的な) 引用は、発話及び思考の内容を、仮想的にその人になりきって、その人の内面から再現した共感的な表現にあたり、こういった「思考内容の引用を好む日本語は、他者の内面に立ち入った表現を好む (本多 2009: 412)」という傾向が見られるという。

この主張を踏まえて、本論文との関連性を考えてみよう。日本語では直接引用の形に準じ

る要素が「とき(に)」の前に来るのが一般的であることを2節で見た。この現象も野村(2006)および本多(2009)が観察した日英の傾向に合致している。つまり、日本語は思考であつてもその内容を誰かの発言であるかのように構築して引用する傾向が見られ、それはその人にその瞬間なりきつて、臨場感あふれる描写をすることに一役買っているといえるだろう。

一方で、このような臨場感あふれる表現が、英語にないわけではない。たとえば英語の懸垂分詞構文は、内の視点、つまりその描写場面内に存在する概念化者(=話者)の立場から、自ら仮想的な行為を(しばしば聴者ととともに)行った結果、直接体験したままを描写する特徴をもつ(早瀬 2009, Hayase 2011)。しかし、外の視点からの客体的描写を好む傾向がある英語(池上(2004, 2005)、本多(2005, 2009)など)の中にあつて、この構文は例外的、特異的な事態把握をしているため、その使用条件は厳しく、話者および聴者が存在する「イマ・ココ」に限定された場面でのみ使用が許される構文である(早瀬 2009)。

本論文で考察した日本語の「引用+ときに」は、まさに英語の懸垂分詞構文と似た事態把握を行っている。本論文で見た「引用」も、仮想的にその発言が実際に生じたかのような、当事者的シミュレーション(本多 2009)を行った、臨場感あふれるものといえる。また、この引用要素は、必ずしも必要なものではないことにも注意したい。わざわざ引用を示す必要がない状況においても、日本語として好むパターンに合致するように、当事者感を増す方向での拡張を見せる傾向は、英語が言語として好まないパターンを縮小しようとしている傾向ときれいな相反関係を成すと考えられる。つまり、日本語はわざわざ引用をしなくてもいい場面においても、臨場感を増す方向へ向かいがちであり、そのような表現が好まれる(実際に私的な場面でどんどん用いられるように拡大している)、という対比が見られる。

さらには、このような臨場感あふれる描写は主体的な内の視点からの場面設定であるため、ここから話者による話題設定という機能が生まれやすいということも、英語の懸垂分詞と似た意味変化の現象だと言える。内の視点からの主体的な解釈を行う懸垂分詞が独立して用いられると、話題化という意味機能を新しく発達させる傾向が見られる(Hayase 2011, 2014, 早瀬 2017, 2020a, b など)。日本語でも引用を用いて場面設定をする表現が、次第に話題設定というレベル設定になっていることがうかがえたが、これは言語を越えて見られる一般性の高い変化の流れである可能性も出てくる。この点については仮説の域を出ないため、実例をもっと多く集めて検証する必要があるだろう。

5. まとめ

本論では、限られたデータに基づく試論ではあつたが、日本語の「ときに」という接続表現に関して、引用が多用されるようになってきていること、それが日本語の好むものの見方である「他者の内面に立ち入った形で表現をする」を具体化した例であること、そういった主体的な解釈から話題設定という機能がうまれること、またそれは言語を越えた普遍的な意味変化であるかもしれない可能性について示唆をした。今後の事例研究を重ねて検証していくべき課題である。

参考文献

- 野田春美 (1997) 『の(だ)の機能』 東京: くろしお出版.
- 早瀬尚子 (2009) 「懸垂分詞構文を動機づける内の視点」 坪本篤朗・早瀬尚子・和田尚明 (共編) 『「内」と「外」の言語学』 55-97, 東京: 開拓社.
- Hayase, Naoko (2011) The Cognitive Motivation for the Use of Dangling Participles in English, In Panther, Klaus-Uwe and Günter Radden (eds.) *Motivations in Grammar and Lexicon*, 89-105, Amsterdam: John Benjamins.
- Hayase, Naoko (2014) The Motivation for Using English Suspended Dangling Participles: A Usage-Based Development of (Inter)subjectivity, In Coussé, Evie and Ferdinand von Mengden (eds.) *Usage-Based Approaches to Language Change*, 117-145, Amsterdam: John Benjamins.
- 早瀬尚子 (2017) 「分詞表現の談話標識化とその条件」 天野みどり・早瀬尚子 (共編) 『構文の意味と拡がり』 43-64, 東京: くろしお出版.
- 早瀬尚子 (2020) 「過去分詞givenに見る談話的用法への変遷について」 田中廣明・秦かおり・吉田悦子・山口征孝 (編) 『動的語用論の構築へ向けて』 2-24, 第2巻 開拓社.
- 本多啓 (2009) 「他者理解における「内」と「外」」 坪本篤朗・早瀬尚子・和田尚明 (共編) 『「内」と「外」の言語学』 395-422, 東京: 開拓社.
- 池上嘉彦 (2004) 「言語における<主観性>と<主観性>の言語的指標 (I)」 『認知言語学論考 No. 3』 山梨正明他 (編) 1-49, 東京: ひつじ書房.
- 池上嘉彦 (2005) 「言語における<主観性>と<主観性>の言語的指標 (II)」 『認知言語学論考 No. 4』 山梨正明他 (編) 1-60, 東京: ひつじ書房.
- 鎌田修 (2000) 『日本語の引用』 東京: ひつじ書房.
- 中園篤典 (2006) 『発話行為的引用論の試み—引用されたダイクシスの考察—』 東京: ひつじ書房.
- Wilson, Deidre and Dan Sperber (2012) *Meaning and Relevance*, Cambridge: Cambridge University Press.